

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

音 楽		教育出版
総 評		<p>音楽科において、身に付けたい知識・技能が明確に掲示されているために、明確にめあてをもって学びを進めることができる。また、表現活動の内容も幅広く、存分に音楽と触れ合うことで、音楽への愛好の心情や豊かな感性を育むことができる。</p> <p>説明の文字の大きさが小さく、学校調査においても「工夫・配慮を要する」という評価が多い。さらに扱う活動が多岐にわたるために、どの児童も意欲的に取り組めることができるかという点では不明である。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 被災地である福島県、宮城県、熊本県の人達が音楽を通して応援の気持ちを伝えたり、心をつないだ例が示されている。人々が音楽活動を通して心を寄せ合ってきた様子が分かる。(6年P.40、P.41)未来を切り拓くための学力向上に配慮されている。② ○ 「さんぽ」の楽譜と共に手話がイラストで紹介されている。障がいの有無にかかわらず全学年で楽しめる工夫がなされており、豊かな心の涵養を目指すよう配慮されている。⑤
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教材で教える共通事項がめあてや誌面の右上に表示されていることで、教師も児童も意識しながら学習を進めることができる。② ○ 1年P.4や2年P.2のように、音楽表現や活動内容がわかりやすく表わされているために、どの児童も適切に安心して取り組むことができる。③ ○ 表現および鑑賞領域において、思考判断し表現する一連の過程について、まなびナビのコーナー等を用いて工夫されている。⑦
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあての文が学ぶポイントの部分の色を変えているために、文字の読み取りが苦手な児童も見つけやすい。 ○ 特に、共通教材の写真や絵の取り扱いが美しく歌詞からイメージしやすい。③
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ かえるのマークを使って、以前学習したことを思い出し、内容が定着するよう工夫されている。② ○ 写真や解説等の資料を多数掲載して、児童に興味を持たせ、学習意欲を引き出しやすくする配慮がなされている。②
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きのページに有名なアーティストから子どもたちへのメッセージが記されている。また、写真や解説等の資料を多数掲載して、児童に興味を持たせ、学習意欲を引き出しやすくする配慮がなされている。②
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ いずれの学年も共通事項の習得は期待できるものの、その学びが何につながるのか、意義は何かについてのイメージがもちにくく、音楽科の知識・技能の習得のみになってしまう可能性がある。①②
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が音楽的な見方考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わることが促されるようなしかけが、やや少ない。① ○ 6年P.46、P.47の音楽づくりの説明を理解することに時間を要し、それによって、学びの楽しさを感じにくい。④ ○ 明確な進め方を掲載するが故に、説明の文章表記が多く、児童が自ら発見したこと、気付いたことを発表しにくい。⑤
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 折り込みのページ(各学年)や透明シート(5年P.30、P.31の間)の必要性が感じられない。④ ○ 4年P.44のサムルノリのチャンゴがどれであるのか明確ではない。③
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次の配置の仕方からは学年の目標や内容を踏まえて効果的な指導が行われるよう構成配列されているのかがわかりづらい。目次にメリハリが乏しく見つけにくい。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 扱う内容が盛り沢山で特に高学年は年間授業時数に修めることが難しい。①

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

音 楽		教育芸術社
総 評		<p>音楽科の学びが、他の教科や生活に生かされるような項目を掲載しているために、教科横断的な意識を教師も児童も明確に持ちやすい。また、1年間の学習の見通しや、次学年につながられるように6学年を通して系統立てた配列になっており、学校調査の評価も高い。</p> <p>共通事項の扱いについて、内容は発達段階を考慮したものとなっているが、意識づけが進むよう表記の仕方に工夫があるとなお良い。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<p>○ 「ちいきにつたわる音楽を調べよう」（4年P.28、P.29）や「打楽器でリズムアンサンブル」（5年P.30、P.31）、「ラバースコンチェルト」（6年P.18、P.19）等において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業が展開するように工夫されている。③</p>
	2 内容の取扱い	<p>○ 階名と音の高さを風船で示し、児童が視覚的に音階を理解できるように工夫されている。（1年P.39、P.41、P.57 2年P.21、P.25、P.27 3年P.9、P.11、P.13）⑥</p> <p>○ 表現及び鑑賞において、思考判断し表現する一連の過程について、進め方やポイントを示したりワークシート等を用いたりして工夫されている。（4年P.15、P.37 5年P.46 6年P.41）⑦</p> <p>○ 5年P.30～P.33の音楽づくりの進め方が順序を追って説明されているために大変わかりやすく、児童が「やってみたい」と思えるものである。③</p> <p>○ 2年、3年、4年には常時活動の例を示し、音楽の力が自然に身に付くように工夫されている。③</p>
	3 外的要素	<p>○ どの学年も図が大きくて見やすく、文字も読みやすい。③</p> <p>○ 写真が鮮明で、楽しい雰囲気となる色遣いの配慮がある。挿絵のキャラクターに役割を持たせているので、学習の方向性が伝わりやすい。③</p>
	4 構成・配列	<p>○ 目次が学期ごとの配列、単元ごとに色を変えており、さらに各ページ左上の色の面積も大きく使われているためにページがめくりやすい。②</p> <p>○ 各学年P.2～P.3に1年間の目標や学習の見通しが持てるように工夫されている。①</p> <p>○ 題材がすべてのページに表記されており、いつでも何の学習をしているのかわかる。②</p> <p>○ 社会科とリンク（4年P.30、P.31、6年P.50、P.51）、国語科とリンク（6年P.70、P.71）等、教科等横断的な視点から効果的な指導が行われるよう構成されている。①</p>
	5 資料・その他	<p>○ 挿絵に様々な手法を用いた作品が使われており、児童に興味を持たせ学習意欲を引き出しやすくする配慮がなされている。②</p> <p>○ 鑑賞活動で聴いた作曲者紹介は写真も大きくわかりやすい。②</p>
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<p>○ 特になし。</p>
	2 内容の取扱い	<p>○ 6年P.37の指揮者資料は指揮者は男であるという固定した概念をもたせる恐れがある。⑤</p>
	3 外的要素	<p>○ 共通事項の扱いについて、内容は発達段階を考慮したものとなっているが、意識づけが進むよう表記の仕方に工夫があるとなお良い。②</p>
	4 構成・配列	<p>○ 特記なし。</p>
	5 資料・その他	<p>○ 5年（P.12）のこいのぼりに焦点をあてた写真であるために、こいのぼりを知らない児童にはどのように飾られているのかの様子が不明確である。①</p>